

# 学級活動指導案 (想定される領域・教科:自立活動、生活単元学習)

- 1 題材名「たべるものにあわせてつかいわけよう」
- 2 本時ねらい
  - ・食器を使い分けることで、こぼさず食べることができることを知る。
  - ・状況に応じた判断をする思考を育てることができる。
- 3 番組の活用について
  - ・食器の使い分けについて考える機会とすることができる。
  - ・簡単なゲームを通じて、できる感覚を味わうことができる。
- 4 本時の流れ

主な学習活動と内容 (45分)		指導上の留意点
① 本時の学習内容を確認 <div style="border: 1px solid red; padding: 2px; display: inline-block; color: red; font-weight: bold;">たべるものにあわせてつかいわけよう</div>		・児童が、学習の見通しをもてるように、本時の学習内容を視覚的に提示する。  ・教室の明るさに注意する。
② ストレッチマン・ゴールドの視聴 ○番組を途中まで(～2'38「怪人出現の警告音前まで」)視聴する。		
③ 動画の内容を確認する ○それぞれのメニューで使った食器を確認する。 ○他のメニューでも考えてみる (例) コーンスープ、ハンバーグ 唐揚げ、ツナサラダ、プリンなど ★ レベルアップ問題:箸の使用も可→ラーメンなど		・使用した食器の違いを確認できるよう、食べ物や食器の写真(イラスト)カード、食器模型や実物の食器、点つなぎプリントなど、児童の実態に応じて、使用する教材・教具を準備しておく。
④ 動画の続きを最後まで視聴する ○肩のストレッチをする場面では、ストレッチマン・ゴールドと一緒にストレッチをする。 ※状況に応じて、動画を7'24で一旦止めて、肩のストレッチを更に入念に行ってもよい。		・映像を見て行うことが難しい児童には、動作補助の支援を行う。 ・ストレッチされている部位がわかるよう、伸びている部分を手で触るなど、感覚的に理解できるような支援を行うことも考えられる。
⑤ 簡単なあそびをする(1つだけでも両方でも可) ○キャスターいすゲーム 椅子に座るのは児童、牽引するのは教員。 ○食器使い分けゲーム 各々の児童の実態や課題に応じて、使用する教材を替えながら行う。紐の太さや素材、長さなどを変えてもよい。		・スピードが出し過ぎずに、児童の様子を見ながら牽引する。  ・ビー玉やピンポン玉の代わりに、紙やアルミホイルを丸めた、大きさや重さの違うものを使用してもよい(誤飲防止)。
⑥ 本時の振り返りをする ○食器の使い分けについて、本時の活動の様子などを振り返る。 ○学習したことを、生活の中で生かすことを知ることができる。		・自分たちの活動を視覚的に振り返ることができるよう、必要に応じて、様子を撮影した写真や動画を使用してもよい。

【他の教科との関連】 生活科 2段階 ア 基本的な生活習慣

(イ) 身近な生活に必要な身近処理に関する基礎的な知識や技能を身に付けること。

## 5 評価

- ・番組で紹介されたポイントを参考にし、食器の使い分けを意識し、活動に取り組むことができたか。(知識・技能)、(思考力・判断力・表現力等)

